

「1ミリもない」考

楢橋比早子

「1ミリも～ない」は否定文脈で使用される程度副詞である。「1ミリも譲らない」のように全否定する。主に読売新聞、朝日新聞を対象に、「1ミリも～ない」構文の成立過程と用法について明らかにする。得られた用例数は読売新聞 101 例、朝日新聞 149 例である。初出は朝日新聞 1985 年で、2000 年以降に用例が徐々に増え、2010 年代になってから多くみられるようになった。

インタビューや講演の発言など、会話文中に現れることが多い。使用する層を確認すると、政治家が最も多く、91 例、次いで芸能人 24 例、スポーツ選手 18 例である。一般人からの投書では、70 代以上、小学生など、年齢も幅広い。分野世代問わず広く浸透してきた表現である。

「1ミリもない」の用法については3つの特徴的なことがある。1つめは「1ミリ」が実質的意味を持つ例で、降水量をさす場合があげられる。「1ミリも降らなかった」は、降水量ゼロをさすうえ、全否定でもある。程度副詞化の契機になっていると考えられる。2つめは、コロケーションで「譲らない」「進まない」との結びつきが強いことである。これは「一步も譲らない」「一步も進まない」という従来の表現から移行であると考えられる。3つめは、「悔いは1ミリもない」のような形容詞と共起する例が出現したことである(2000年以降)。基本的には動詞と共起するが、中でも思考動詞などと共起することを介して「1ミリもない」が成立したと考えられる。

ほかに長さの単位を使った表現としては、「1センチも」の例も少し存在している。「1ミリも」と用法は同じで、全否定である。「1ミリ」よりさらに小さい数値をさす例「1ミクロンも」「0.1ミリも」も出現している。程度副詞「1ミリも」は極度の表現として、長さの単位を使用した新しい表現で斬新であり、全否定を強調をしているものだとはいえるだろう。